

カリヨン

CARILLON

日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学

P 02-05 ... **1年間を振り返って**
～イベント・活動報告～

特集

P 06-13 ...

本学が展開する 国際活動

- ・これまでの赤十字国際演習・赤十字スタディーツアーの記録
- ・国際活動体験ツアー in OSAKA 2022 参加者インタビュー
- ・国際活動体験ツアー in AOMORI

P 14-15 ...

介護福祉学科5年連続
国家試験合格率 **100%**

P 16 ...

CARILLON INFORMATION

2022年度



学報

○カリヨン（フランス語：Carillon）とは、教会の塔などに吊り下げられる音程を異にする多数の鐘。16世紀以来、特にフランドル地方で発達し、自動装置を持つものもある。本学では、赤十字の理念である「人道・博愛・奉仕」を3つの鐘に投影したシンボルとして、平成8年の短大開学時に1号館に設置した。これにちなんで本学学園祭も「カリヨン祭」と呼んでいる。

No. 12

イベント・活動報告!

1年間を振り返って



令和3年度 3月10日 学位記授与式

令 和3年度学位記授与式が挙行されました。看護学部114名、大学院修士課程4名、介護福祉学科12名の計130名が学び舎を巣立ち、社会人として医療・福祉の道に進む決意を新たにしました。



令和4年度 入学式 4月5日

令 和4年度の入学式が行われました。看護学部108名、大学院修士課程4名、介護福祉学科25名の計137名の新入生が、「生きるを支える人になる」ための第一歩を踏み出しました。

私のキャリアプラン(旧宣誓式) 4月28日

私のキャリアプランとは、対人援助のプロフェッショナルである看護・介護福祉を志す者として、自覚と向上心を高め、自らの目標を再認識する機会であり以前は宣誓式と呼んでいました。今年も学内での学びを経て、本格的な長期の施設実習に臨む看護学部3年生と介護福祉学科2年生が参加しました。



7月14日

高大連携の締結に係る協定の調印式

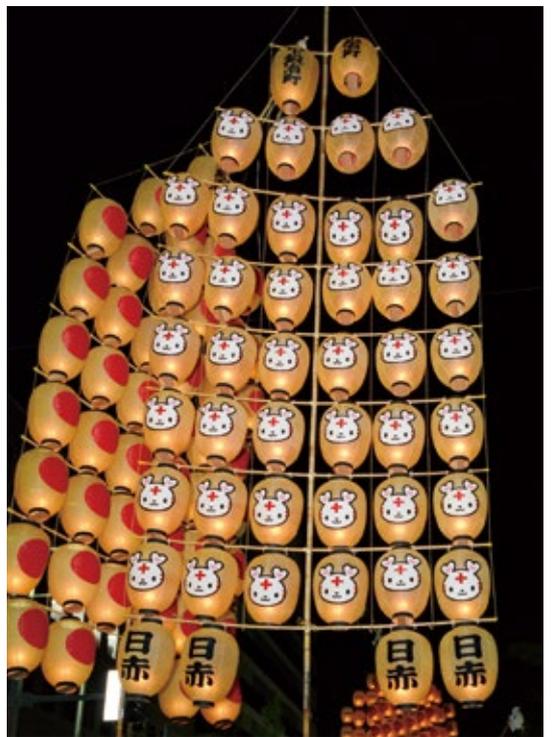
聖 聖女子短期大学付属高等学校と本学は高大連携協定を締結しました。調印式は、聖女子短期大学付属高等学校講堂で行われ、同校3年生の皆さんと両校関係者が参加しました。今後、相互の信頼関係を築きながら連携・交流し、教育の活性化を図ります。





包括的連携協力協定 調印式 7月20日

秋 田県社会福祉協議会と本学は包括的連携協力協定を締結しました。災害時におけるボランティアの確保や防災活動、地域福祉に関する取り組み、介護予防、認知症予防など地域住民のニーズに応え、活力ある地域社会の形成と人材育成をめざします。



秋田竿燈まつりへの参加 8月5日

秋 田竿燈まつりが3年ぶりに開催されました。日赤竿燈会が華々しいデビューを飾り、日赤の竿燈が夜空を彩りました。日赤竿燈会は、本学のほか日本赤十字社秋田県支部、秋田赤十字病院、秋田県赤十字血液センター、秋田赤十字乳児院の有志で運営されています。



11月3日

秋のスポーツフェスティバル

学 友会主催の「スポーツフェスティバル」が今年も開催されました。学生たちは各競技で汗を流し、大学・短大の垣根を越えて親交を深めました。後夜祭では、学生ロックバンド「イチブンノヨン」が会場を盛り上げました。



11月9日~10日

看護学部卒業研究発表会

卒 業研究は、4年生が自分の関心のある研究テーマについて、具体的な研究計画書を作成して研究を進める授業です。当日は各自緊張しながらも、今まで努力してきた成果を精一杯、堂々と発表していました。



9月22日・12月7日

病院合同 就職説明会

今 年度は対面とオンラインの2つの形式で合同就職説明会を行い、県内外20の病院がご参加くださいました。学生たちは将来の夢を思い描きながら、説明に聞き入っていました。





2015年 赤十字スタディーツアー (カンボジア)

【訪問先】
カンボジア赤十字社、UNICEFカンボジア事務所、国立母子保健センター（青年海外協力隊との交流）、JICAカンボジア事務所、国際保健協力市民の会（SHARE）、テクトラーヘルスセンター

特集

本学が展開する国際活動

世界最大の人道支援団体である赤十字は、世界各地でさまざまな国際活動を展開しています。本学でも、赤十字国際演習といった授業科目や赤十字スタディーツアーを実施し、また、国際活動体験ツアーへの参加を通じ、学生の学びを深める国際活動を展開しています。

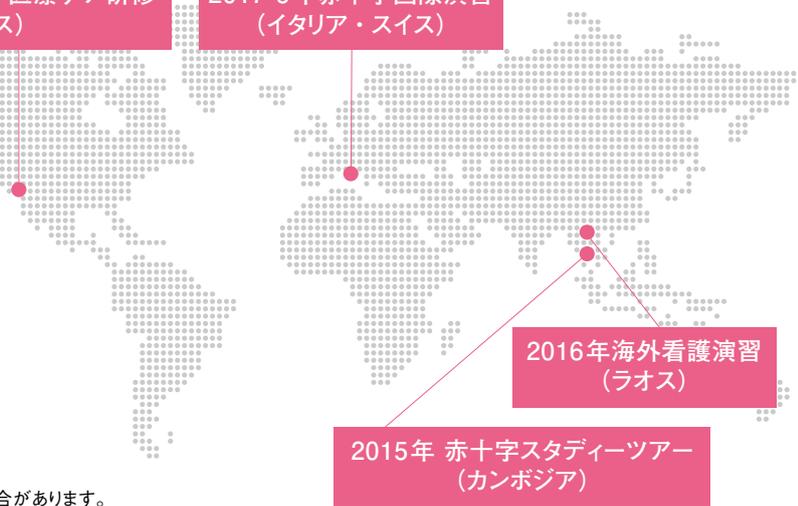
2016-9年 英語・赤十字・医療ケア研修 (ロサンゼルス)

2017-9年赤十字国際演習 (イタリア・スイス)

これまでの赤十字国際演習・赤十字スタディーツアーの記録

グローバルな視野を広げるために、語学研修や学生交流のほか、海外の赤十字活動を現場で学ぶプログラムを実施しています。過去には、カンボジア、ラオス、イタリア、スイス、アメリカを訪問し、国際赤十字の歴史・組織・活動や国連などの人道支援機関の役割について理解を深めました。

※今後の国際活動は、社会情勢等によりスケジュールや訪問先が変更になる場合があります。



2016年海外看護演習 (ラオス)

2015年 赤十字スタディーツアー (カンボジア)

2016年 海外看護演習 (ラオス)

【訪問先】
ラオス赤十字社、WHOラオス事務所、JICAラオス事務所等、トゥラコム郡病院（青年海外協力隊との交流）、パークグム郡病院、シェンレー村ヘルスセンター、ドンクワイ村（フィールドワーク）



2016年-2019年

英語・赤十字・医療ケア研修 (ロサンゼルス)

〔訪問先〕

アメリカ赤十字社ロサンゼルス支部、UCLAメディカルセンター、
ロサンゼルス小児病院、アメリカ赤十字社血液センター、等



2017年-2019年

赤十字国際演習 (イタリア・スイス)

〔訪問先〕

赤十字国際委員会 (ICRC)、国際赤十字・赤新月社連盟 (IFRC) の各本部、
世界保健機関 (WHO)、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 等の国連機関



【2022年4月29日・30日 開催】

国際活動体験ツアー in OSAKA 2022 参加者インタビュー

本学には日本赤十字社のネットワークを活かした学びのチャンスがたくさんあります。そのうちのひとつが「国際活動への理解を深める機会」です。本学では、毎年数名の学生が大阪赤十字病院主催の「国際活動体験ツアー in OSAKA 2022」に参加し、国際活動への理解を深めています。2日間にわたり行われたツアーに参加した学生たちに、体験や学びを聞きました。



看護学部3年生
松浦 想徳さん

看護学部3年生
石田 海那さん

看護学部3年生
野本 菜央さん



国際活動体験ツアーとは

赤十字の看護学生向け体験型イベントで、日本赤十字社に5つある国際医療救援拠点病院のひとつである大阪赤十字病院国際医療救援部が毎年実施しています。今回は、全国から学生23人が参加し、このうち本学からは3年生と4年生の合計6人が、発災から帰国までの国際活動を疑似体験しました。

——国際活動体験ツアー in OSAKA 2022に参加した理由を教えてください。

野本 私はもともと国際活動に興味がありましたが、具体的にどんなことをしているのかは理解していなかったんです。それを知りたいと思って参加しました。

石田 私はツアーを主催している大阪赤十字病院に就職を希望しています。職場見学を兼ねて、業務内容を知りたくて参加しました。

松浦 私は大学入学後、自分で行動を起こすことがなかったので、自ら学ぶきっかけにしたいと思いました。国際活動に

興味はありますが、大変な仕事であることも理解しているので、本当にやる覚悟を持てるのか自分の気持ちを確かめてみようと思いました。



——どのようなことを体験しましたか。

野本 今回のツアーは「ダグーナ共和国」



という架空の国で地震が発生し、大きな被害が出ているという想定で行われました。私たち参加学生は、緊急医療支援を行う大阪赤十字病院の派遣スタッフとして、発災から帰国までの5週間を疑似体験しました。

石田 かなり本格的な内容でした。派遣要請を受けて出国前にどのような準備をするのか、現地に到着してクリニックの設営、運営、撤収までにどんなことを行うのか、4つのチームに分かれて体験しました。



— 2日間の日程でさまざまなことを体験してきたんですね。特に印象に残っていることはありますか。

石田 派遣先のダグーナ共和国に到着して活動の場所を決定するところが、一番難しいポイントだと思いました。講師の方からアドバイスをいただきながら、メンバーで話し合っ決めてのですが、傷病者の状況や交通の便などを総合的に考えた決断を迫られます。「こっちがいい」「こっちは危険だ」とさまざまな意見があり、チームの意見をまとめるのに時間がかかりました。また海外での有事の現場ですから、自らの安全が守られる場所を活動拠点にできているかを考えることも重要だと学びました。

野本 私も同じですね。自分たちの安全確保を考えることは、国内の活動よりも慎重に行わなければならないと感じまし

た。私は活動場所決定後のステップである、クリニックのレイアウトを決める作業が印象に残っています。こちらも現地の治安や派遣スタッフの特性などを考えながら、実際にテントを設置しました。物事を多角的に考える必要があるんだと実感させられましたね。



松浦 私はクリニックを運営して一定期間が経った後、撤収するか延長するかを自分たちで決める場面が印象に残っています。メンバー同士で力を合わせて判断材料を集めた上で、続けるかどうか話し合いました。現地の人たちは私たちに残ってほしいと思っているけれど、他の国からも続々と支援に来ているという状況で、何をもって判断するのか。とても難しいと思いました。



—今回は、実際に海外で活動された方々から直接お話を聞くことができたんですね。

野本 はい。私が参加したチームの講師は、海外で助産師として働いた経験をお持ちで、公衆衛生についての話とはくに興味深かったです。日本では、手洗いな

どの基本的な感染症対策が周知されていますが、海外では必ずしもそうではない。今必要な医療を提供するだけでなく、将来のために公衆衛生についての知識を広めていくことも大切だと教えてもらいました。

石田 日本で当たり前のことが海外でも当たり前とは限らないんですね。それと、ツアーの中で海外で現在活動中の方とオンラインで交流したのですが、海外で活躍するためには語学力が重要だと痛感しました。現地の方とコミュニケーションを取るだけでなく、さまざまな国から派遣されている医療従事者とコミュニケーションを取るためにもとくに英語力が必要です。日本で看護師として経験を積んで、万全の準備をして赴かなければならないことを改めて痛感し、これから自分がすべきことが明確になりました。



松浦 私はオンラインでの交流を通して、現地で活動中の方たちの雰囲気がとても良いなと感じました。海外で長期間にわたって医療支援を続けていくためには、協力関係が重要だと思います。そのためには円滑なコミュニケーションが必要不可欠だと感じました。

—移動が制限されるコロナ下で、県外でのこうした機会は貴重でしたね。

石田 自分の大学入学と同じ時期に国内で感染が拡大したので、さまざまな制約がありました。そのため、県外の研修に



参加したのは初めてでした。秋田に戻ってからツアーのことを本学の先生にご報告したところ、国際活動の映像資料を貸していただき、さらに興味を広げることができました。

野本 参加した学生同士の交流もとても有意義でした。最初は緊張していましたが、参加していたのはみんな国際活動に興味のある学生だったので、合間の時間に将来の夢なども語り合いました。自分と同じ志を持つ仲間と出会えてこれからの励みになりました。

—今回の経験をこれからどのように役立てていきたいですか。

野本 国際活動に携わってみたい思いが強まる一方、これから実習も始まるので、今後自分が新たな分野に興味を持つことがあるかもしれません。でも今回のツアーで感じたことは、これからも記憶に残り続けると思います。赤十字



で学ぶ者として、赤十字の人たちが国内外で頑張っていることを常に忘れずにいたいです。

松浦 残りの学生生活の中で、看護師として本当に国際活動に携わることができるのか、迷いが生じると思います。でも、迷った時には今回の経験を思い出して、自分が将来どのような看護師になりたいのか、どんな看護を提供した

いかを考えるための糧として活かしていきたいです。

石田 私は、夢が「目標」に変わりました。国際活動に興味があって、日頃から自分でも調べていましたが、まだまだ知らないことがたくさんあり、勉強不足を痛感しました。ただ、何を勉

強すべきかがはっきりしたので、これからもっと努力していきたいです。



～4年生の参加者にも聞きました～

コミュニケーションから始まる国際救援



看護学部4年生

伊藤 一愛 さん

価値観や生活背景が違う異文化圏では、コミュニケーション力が欠かせないツールであり、効率的な情報収集と意思疎通を可能にしてくれます。私は今回の国際活動体験ツアーを通してそれを実感しました。印象的だったのは、提示された課題に対して、自分たちの行動を決定するプロセスです。仲間とともに情報を集め、議論を重ねました。さまざまな考え方があること、見えているものがすべてではないこと、自分では想像しえないことが起こりうる可能性を知り、視野が広がったように思えました。同じ志を持つ仲間や尊敬できるスタッフの方々との出会いは、私にとってかけがえのない宝物です。

私の夢は、世界に広がる赤十字・赤新月のネットワークの中で、国や職種の壁を越え、一人でも多くの命を救うために活動することです。



【2022年12月17日・18日 開催】

国際活動 体験ツアー in AOMORI



日本赤十字社青森県支部の協力を得て毎年本学が主催する本ツアーは、赤十字の国際活動である紛争地での人道支援、自然災害時の救援活動、途上国における開発協力への理解を深める体験型イベントです。今年度は本学の17名の学生が参加しました。

参加者インタビュー (P13)



参加者インタビュー



看護学部1年生
菊地 凜 さん



Q. 今回の経験を、これからの学習・生活にどのように活かしていきたいですか。

体験ツアーで「臨機応変に対応する力」「他者に寄り添う人間性」の大切さを学びました。このことは、海外や紛争地での活動だけでなく、国内で起こりうる応急処置・援助の場にも当てはまると思います。今回の学びを、身近な場で日常的に活用していきたいです。

Q. 印象的だったことや参加してよかったと思うことはなんですか。

救護活動時の必需品である「無線機」の使い方が、想像以上に細かく決まっていることに驚きました。また、国際人道法の研修がとてもしっかりと勉強になりました。数多いルールを正しく理解すること、適切な優先順位をつけて判断することの難しさを知りました。体験ツアー全体を通して、自ら進んで考え行動することの大切さを学びました。

Q. 自分の成長を感じた点がありますか。

実際の現場を再現するRAID CROSS研修では、自分の考えや意見をしっかりと周囲に伝える必要がありました。自分の知識を最大限に活用して考え、それを行動に移すよう意識して取り組みました。先輩に助言を求めると、積極的にコミュニケーションを取れたことで、自分が成長できたと思います。

Q. 将来の夢を教えてください。

私の夢は、地元で貢献できる看護師になることです。たくさんの人を笑顔にできる、頼られる存在になりたいです。誰にでも優しく接する姿勢と、人とのコミュニケーションを大切に、夢に向かって努力していきたいです。多くの学びを得た今回の体験ツアーは、私にとって貴重な経験となりました。



看護学部2年生
熊谷 はるか さん



Q. これまでの学習が役立ったと思うことはありましたか。

「赤十字概論」や「赤十字救急法」の授業で学んだ知識が役立ったと思います。大学で所属する赤十字について学ぶサークル(RCRC)での経験も活かすことができました。また、研修を通して改めて感じたのは、英語学習の重要性です。講師の方から助言をいただいたので、早速、強化対策を実践したいと思います。

Q. 参加しようと思ったきっかけは何ですか。

国際的な視野を広げる絶好の機会だと思ったからです。国内外で活躍している保健医療従事者の方々との交流や実践的な演習を通して、自身の学びを深めたいと思い参加しました。もともと英語の勉強が好きで、大学入学時から国際活動に関心があったので、今回の体験ツアーに参加できてとても嬉しかったです。

Q. 印象的だったことや参加してよかったと思うことはなんですか。

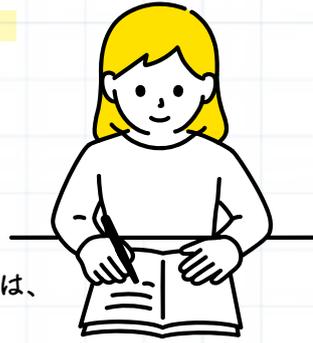
実際に海外救援の経験がある方とお話するという貴重な体験ができました。限られた物資・人員の中で、患者の尊厳をいかに尊重しながら医療支援を行うべきか考えさせられ、その大切さと難しさを学びました。今まで感覚的に捉えていた国際活動というものを、自分の中で明確にすることができたと思います。

Q. 将来の夢を教えてください。

国際的視野を持った看護師になることです。どんな状況でも「人道」の理念を貫き実践できる人になりたいです。私は国や文化の違いを越えた看護や訪日外国人・居住者を対象とした公衆衛生看護に興味があるのですが、今回の体験ツアーに参加して将来の選択肢の幅が広がりました。

在学生
卒業生に
聞く！

介護福祉学科の 国家試験対策



介護福祉士は介護系資格の中で唯一の国家資格です。介護福祉士になるためには、さまざまな条件を満たしたうえで、国家試験に合格しなくてはなりません。在学生や卒業生の国家試験対策に合わせたノートの取り方を参考にそれぞれの国家試験対策の様子をのぞいてみましょう。

在学生

介護福祉学科
2年生



長谷部 瑠璃 さん

Q.日々の勉強で心がけていることは何ですか。

通学時間を活用して、国家試験の過去問を解くようにしています。電車やバスでの移動中は、スマホアプリがとても便利です。間違えた問題はスクリーンショットして、必ず後から見直しています。私は、自宅で机に向かうのが少し苦手なので、放課後や空きコマを利用して、図書館で勉強することが多いです。自ら意識して「集中する時間」を作るようにしています。

Q.国家試験対策で大変だと感じることは何ですか。

社会保障制度の高齢者福祉や障がい者福祉等に関する各種制度の仕組みやそのサービスを覚えることです。制度の改正によって、サービスの内容が変更されたりするので、インプットが特に難しいと感じています。ノートに重要な点をまとめて、何度も見返しながら対策しています。

Q.将来どんな介護福祉士になりたいですか。

「利用者主体」を一番考えられる介護福祉士になりたいと思っています。生活を支援する過程で、利用者にごうあってほしいという自分の気持ちが強くなってしまふことがあるかもしれません。そんな時でも、常に利用者とのコミュニケーションを大切に、「利用者主体」の姿勢を貫ける介護福祉士を目指したいです。

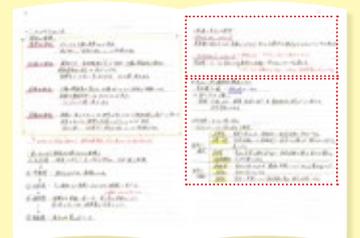
Point ①

文章を簡潔にまとめ、自分の言葉に置き換えることで、見直した際にも頭に自然に入り、テストの前に役立ちます。

Point ②

教科書やテキストの難しい言い回しを、簡潔で平易な文章にまとめるように心がけています。

[長谷部さんのノート]



・共通の老化の理解
・サクセスフル・エイジング
老年期を迎えた人が「幸福」ということを、本人の主観的な視点から捉えるようにする考え

・プロダクティブ・エイジング ← 提唱は「高齢者」に現れる「老化」を示した。
老年期になっても、自立して生産的な活動に関わらなければならない考え。
→ ボランティア、安否確認の「支援」を目的に、無償労働を中心とする。

*老年期における人格の変化
・ライチャードによる人格の変化 5 類型

状況に 適応	円熟型	現実を受け入れ、積極的に社会活動に参加できる。
	安楽・中型	社会活動には消極的だが、依存心も強いが、穏やかに日々を過ごす。
状況に 不適応	装甲型	老化の不安を抑えるために社会活動を減少、若さを誇示し(自己防衛型) 自己防衛を図る。
	憤慨型	老化を受け入れず、過去の失敗について他人を責めることで(自衛型) 自分を守ろうとする。
	自棄型	過去の失敗について自分自身を責め、抑圧の状態になる。

卒業生

令和3年度
卒業



介護福祉士

佐々木 輝蘭 さん

[勤務先]

社会福祉法人 水交会かわ舟の里角間川

Q.国家試験対策で大変だったことは何ですか。

模試でなかなか点数が上がらず、悩むことが多かったです。日々の授業で提出しなければならぬ課題やレポートもかなりあるので、スケジュール管理をしながら授業の課題と試験勉強を両立させるのが難しかったです。

Q.大変だったことをどのように乗り越えましたか。

仲間と励まし合い、優先順位を考えながら前向きに取り組みました。なにより、介護福祉学科の先生方の存在が大きかったです。どうやったら効率的に学習ができるか、点数を上げられるか、一緒に模索してくれました。空いている講義室を借りて、プロジェクターを使いながら課外指導をしてくださった時の思い出は、今も忘れられません。

Q.介護福祉士としてのやりがいを教えてください。

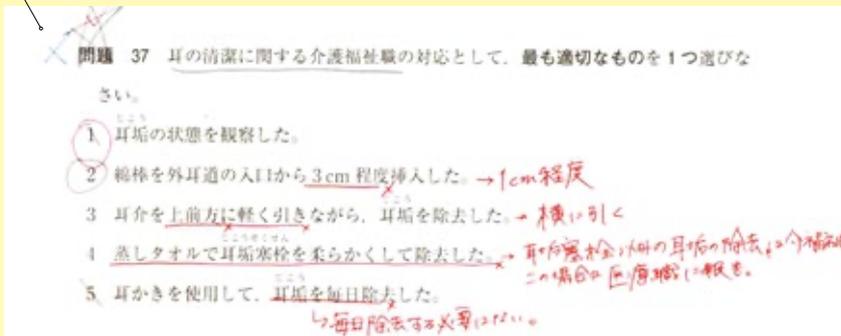
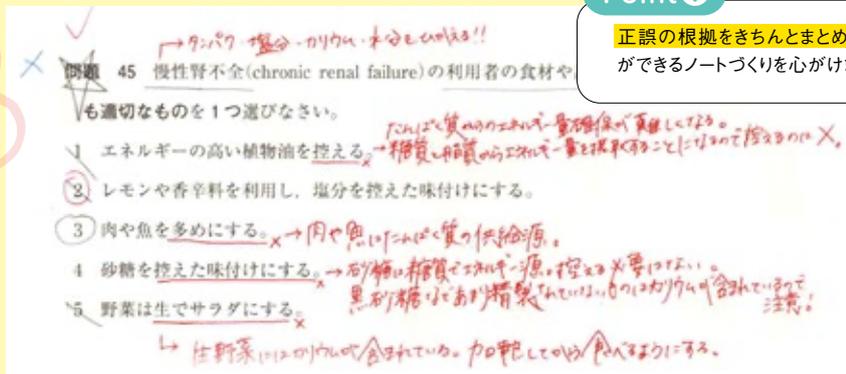
現在は、障害者支援施設で働いています。利用者の中には、お年寄りや私と同年代の方など、さまざまな方がいらっしゃいます。利用者とのコミュニケーションでは、難しさを感じることもありますが、利用者の方から頼ってもらえたときにやりがいを感じます。

Point 2

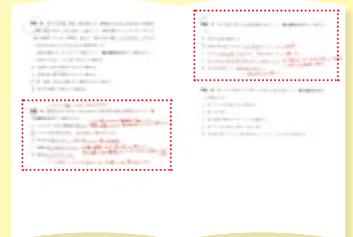
すべてをノートに書くのではなく、過去問や模試を何回も解いた中で、同じような内容で間違えたところをノートで復習しながら勉強しました。

Point 1

正誤の根拠をきちんとまとめ、見直しができるノートづくりを心がけました。



[佐々木さんのノート]



日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科

介護福祉士 国家試験合格率 5年連続*100%達成!

介護福祉学科では、介護福祉士国家試験合格を目標に、模擬試験や対策講座、個別指導を行っています。1年次から早期の意識づけを行い、介護福祉士として社会で活躍するための資質と能力を磨き上げる環境を整えています。2年次には教員が担当学生に対し、受験に関する学習サポートを行っています。サポートの一つである復習講座では、科目の担当教員が主体となり模擬試験結果を踏まえ正答率の低い問題や間違いやすい問題等についての振り返り講座を実施しています。

学生一人ひとりの努力と学科の取り組みが実を結び「介護福祉士国家試験合格率5年連続100%達成」という実績につながりました。



*2018年～2022年の5年間

キャリアアップを
お考えの皆さんへ

高度実践看護学分野「老年看護」を新設します

日本赤十字秋田看護大学では、大学院修士課程において専門看護師（CNS）を養成しています。現在の高度実践看護学分野「がん看護」「精神看護」に加えて、令和5（2023）年度の入学生から「老年看護」の専門看護師（CNS）の養成を開始します。

本大学院修士課程が教育訓練給付制度の 専門実践教育訓練講座に！

本学大学院修士課程の高度実践看護学分野（がん看護・精神看護）は厚生労働省の専門実践教育訓練給付制度の講座指定を受けています。この2つの教育課程に加えて、令和5年（2023）年度の入学生からは、本学で開講しているすべての教育課程が指定講座となります。

「専門実践教育訓練給付制度」とは

働く人の主体的な能力開発やキャリア形成を支援し、雇用の安定と就職の促進を図ることを目的として、一定の受給要件を満たす方が厚生労働大臣指定の教育訓練を修了した際に受講費用の一部が支給される制度です。

80万円

教育訓練経費（授業料）の50%

32万円

受講終了後1年以内に資格を取得し
一般保険者として雇用されると
教育訓練経費（授業料）の20%

専門実践教育訓練給付金

2年間で最大

112万円を支給

受講中 上限40万円×2年分＝80万円支給
修了後 上限16万円×2年分＝32万円支給

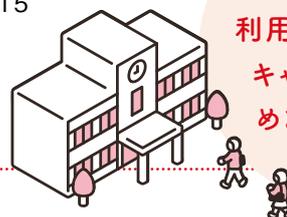
【教育訓練給付に関するお問い合わせ先】ハローワーク秋田

電話：018-864-4111（代表）部門コード 11# 雇用保険給付課 受付時間：8:30～17:15

【出願に関するお問い合わせ先】日本赤十字秋田看護大学大学院 入試・広報課

電話：018-829-3759 FAX：018-829-3030 E-mail：koho@rcakita.ac.jp

国の制度を
利用して大学院で
キャリアアップを
めざしませんか



【本学へのご寄付のお願い】

本学は、赤十字理念を基調とした「人道」を大原則とする建学の精神のもと、すべての学生たちがここで学んで良かったと思える大学をめざし、教職員が力を合わせて学生支援の取り組みを続けております。本学の取り組みについてご理解をいただき、皆さまの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



看護者・養護教諭の養成



介護福祉士の養成



学修環境の充実



体験学習の拡充



防災教育の推進

ご寄付についての詳細は、本学公式webサイトをご覧ください。

日本赤十字秋田看護大学

検索

【税制上の優遇措置】

本学へのご寄付は、特定公益増進法人に対する寄付として、税制優遇措置を受けることができます。寄付受領後に、控除に必要な「受領書」などをお送りします。

【お問い合わせ先】

事務局 経理課

電話：018-829-3014 FAX：018-829-3030

E-mail：keirika@rcakita.ac.jp